

「分ける」すなわち「分かる」

経済学部長 福島 利夫

卒業おめでとう。学生時代の勉強の経験を大切にすれば、習慣として身につけ、人生で役立ちます。基本的な知識を活かすだけでなく、応用力を発揮できます。表面的な現象に惑わされずに、物事の本質を理解する力、説明する力、そして解決する力が重要です。経済学は現実の問題に



最後に、全体を総合的・発展的に把握する理性的な認識が来ます。このような認識の発展段階を活かしての皆さんの今後の活躍を大いに期待します。

旅立つ君たちに乾杯！

法学部長 白藤 博行

ソチ五輪のアスリートの誰もが金メダルを目指したのですが、皆が金メダルを獲得できたわけではありません。羽生結弦は、金メダルを目指して、見事に金メダルを獲得しました。葛西紀明は、レジェンドらしい銀メダルの獲得でした。浅田真央は、金メダルこそ逃してしまいました



が、納得の涙と笑顔は、誰にも勝る感動を与えてくれました。「目標としての金メダル」も「結果としての金メダル」も、もちろん素晴らしいのですが、なにより貴重なのは、真央ちゃんが示してくれた「プロセスとしての金メダル」ではないでしょうか。

良いプロセスで粘る

経営学部長 馬場 杉夫

卒業おめでとう。この日を迎えることができたことを、うれしく思います。このように喜ばしい結果を得ることができたのは、卒業に向けて、皆さんがきちんとしたプロセスをたどってきたからです。卒業に必要な科目の単位を順番に修得してきました。闇雲に頑張ってきたものではありません



谷ありでしょう。迷った時は、プロセスを点検し、粘って、粘って納得できる結果を引き寄せてください。自分の期待以上の結果が伴うことを祈っています。

力尽くす君達の出番だ

商学部長 佐々木 重人

2011年3月の東日本大震災の時、皆さんはどこにいたのだろうか。被災された諸君や、ご家族の方のご苦労の大きさは、察するにあまりある。その年の新学期は、異例づくめであった。時間割が組み直され、電力事情の逼迫で、学内エスカレーターの使用も禁止された。



今、君達は学窓を離れ、社会に旅立つ。傷ついたこの国を元気にするため、職業人として力を尽くす出番が来た。自覚してほしい。卒業おめでとう。

社会を方向付ける人に

文学部長 金子 洋之

卒業おめでとう。皆さんが入学してからの4年間は本当にいろいろなことがありました。そして、何か社会の趨勢が変わっていくような予感を感じた時期に卒業を迎えることになりました。その意味では、単純におめでとうとは言えないのかもしれませんが、大学での勉強を通して、何が正しいかはそれほど単純な話ではないことや、複雑なことをどう解



きほぐして理解するか、その手法を学んできたはずですが、その力を駆使して、何かおかしなことがあれば、おかしいと言える、おかしいのではないかと問える、そういう人になってもらいたいと思います。そういう人こそが社会を方向付けたい人材だからです。今後大いに期待をします。

自己教育力活かし自己実現

ネットワーク情報学部長 江原 淳

卒業おめでとう。ネットワーク情報学部に入学された時、この学部は自分から動くこと、他の人と協力しなければいけないことがあることを申し上げましたが、皆さんは見事にそれを達成し卒業されました。情報関係では技術も利用もドッグイヤーで変化します。これまでの知識



これから、その自己教育力を各分野で存分に発揮して少しでも目標や理想に近づいてください。SNSなどでこれまでの関係も活かします。自己教育を続けて未来を切り開いてください。

「社会力」をみがこう

人間科学部長 宇都 榮子

卒業おめでとう。2010年4月に誕生した人間科学部1期生として希望に満ち溢れて入学された皆さんですが、翌年3月には東日本大震災・福島原発事故の発生にみまわれ、4年間は試験の時であったと思います。その中で、さまざまな社会の変化にも対応できる社会力を身につける学



論文の努力が財産に

経済学研究科長 原田 博夫

経済学研究科をめぐる修了された皆さん、おめでとうございませう。今回の修了者・取得者は、修士10人、博士後期1人の計11人。年齢別は、20代4人、30代3人、40代3人、50代1人の多彩な構成です。これも、本研究科が平成12年度以降進めている「社会に開かれた大学院教育」の成果のひとつだと考えています。



大学院での成果は博士論文、修士論文あるいはリサーチ・ペーパーとて結実したわけですが、その過程での努力もこれからの人生で大いに財産となるでしょう。同時に、大学院時代に学問研究に取り組み、先人の膨大な知的蓄積の一端に触れたことは、これからの人生における謙虚さにも思い至ったのではないのでしょうか。皆さんのさらなる精進を期待します。

知に裏打ちされた価値

法学研究科長 平田 和一

大学院の課程を修了され、学位を取得した皆さん、法研究科のスタッフを代表し、心よりお祝いを申し上げます。論文を完成させ、学位を取得し、今日の目を迎えられた皆さんは、自らの真摯かつ地道な努力の先の目的達成感と、それに伴う喜びに感慨深く浸っていることでしょう。



何が根源的価値なのか問われている時代に、法研究科という場で、自らの目的達成と関わって、皆さんが発見したであろう「知」に裏打ちされた「価値」は、皆さんがこれから身を置く新たな環境での当該「価値」のさらなる検証と相まって、皆さんの社会における立ち位置をしっかりと見据えるための「よすが」となることでしょう。今後の皆さんの活躍を期待します。

普遍的価値を追究する

文学研究科長 道家 英穂

大学院の課程を修了し学位を取得された皆さん、おめでとうございませう。学問研究には対象に向き合う真摯な姿勢、研究を遂行する熱意、精緻な分析能力と冷静な批判精神が必要です。皆さんは本学大学院でこれらを身につけたことでしょう。



文化、異文化を共に尊重しつつ、冷静な批判精神を持って普遍的な価値を追究する学問的態度が社会全般で求められています。今後さらに研究を続ける方、教育に携わる方、実社会に出る方と進路はさまざまですが、皆さんにはそれぞれの場で、学問的態度を貫き、伝えていく使命があると思います。ご活躍を期待しています。

修めた「力」で立ち向かえ

経営学研究科長 廣石 忠司

晴れて博士・修士の学位を取得し、大学院の課程を修了した諸君、おめでとう。今までの苦労が論文としてまとまったことで感慨無量だろう。ただ、ここでちょっと考えてほしい。諸君は何を「修了」したのだろうか？カリキュラムを修めたことは確かだが、それ以上に考える力、苦しみを乗り越える力などを身に「修めた」はずだ。論理的思考の難しさ、論文を書いている行き詰まった時の苦しさ、そして特に留学生諸君は日本語という障害などさまざまな経験をしたことと思う。



これらは人生で必ず役に立つ。今後は順調なときばかりではない。そのようなときには大学院時代を思い出せばきっと乗り越えられる。その意味でも「おめでとう」。

志を持ち続けて精進を

商学研究科長 上田 和勇

大学院の課程を修了し、学位を取得された皆さん、おめでとうございませう。今後は研究や体験を通して、社会的に問題となっている諸事象の解決に邁進されることを切に願っています。その際、次の3点を贈る言葉したいと思います。



第1は、これまでの志、ビジョンを持ち続けて精進することです。各人のビジョンが困難に直面した時、背中を押してくれませう。第2は、現実直視。現実から目をそらさず勇気をもって対応することです。最後は、柔軟な思考で。社会問題には多様な要素があり、構子定規の思考では解決困難です。こうした諸点が環境変化に柔軟に対応できる皆さんをつくることでしょう。今後のご活躍を期待しております。

冷静に「事例」の分析を

法科大学院長 石村 修

法科大学院での学位(法務博士)を修得され、9期目の修了生になられた皆さんに、スタッフを代表してお祝いを申し上げます。日々の研鑽が実り、修了という日を迎え、感慨もひとしおでしょう。しかし、まだ皆さんは目の前に控えています。「司法試験」対策で頭はいっぱいでしょう。この「司法試験」は、すでに学んだことの応用であると考えられることの内容を確認することば、これからの日々はその内容を確認することにあるはず。事例に即応できる力は、事例を読み解く作業であり、冷静に事例を分析することから始まるはず。精神的に、そして肉体的にもフレッシュな状態を維持していくことが、重要でしょう。修了した皆さん全員、吉報を待っています。



学部長・大学院研究科長・法科大学院長からの「贈る言葉」